

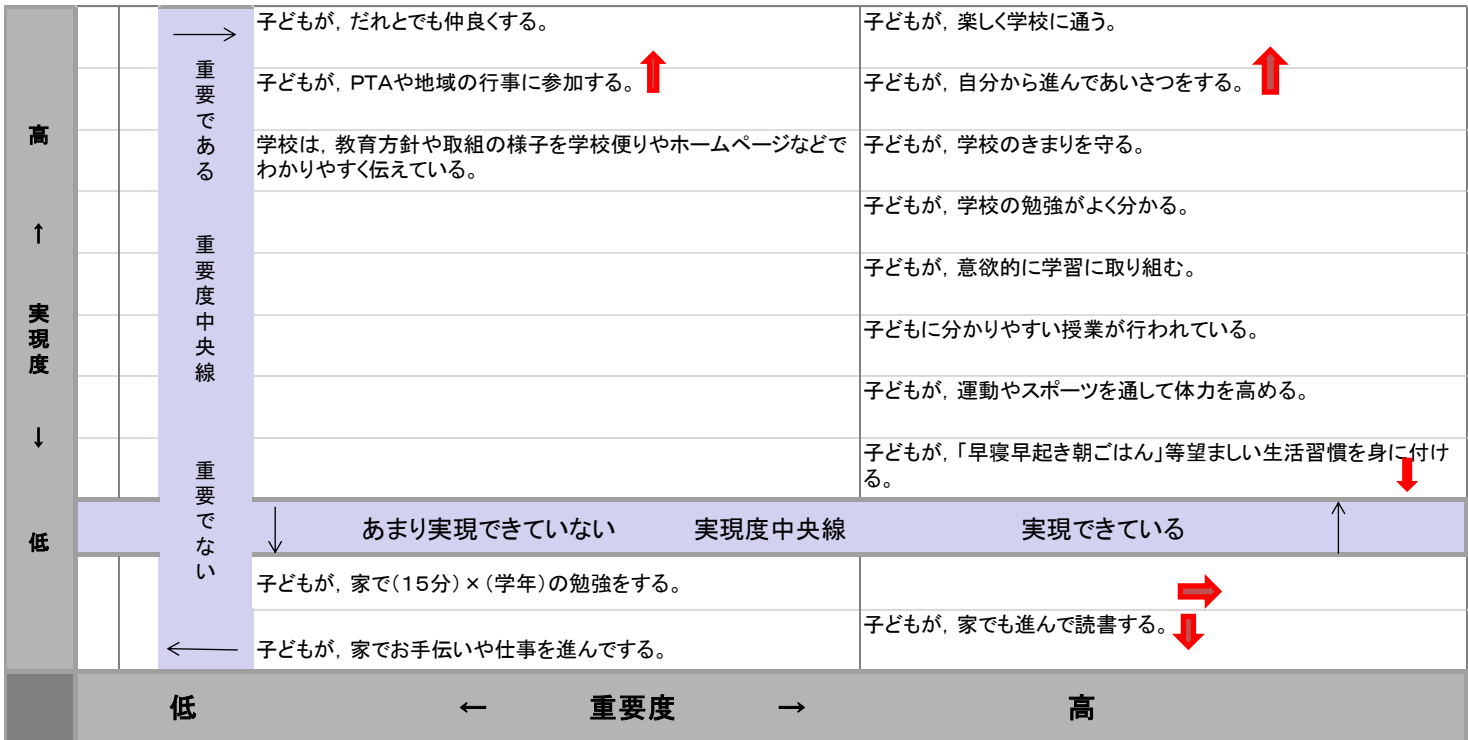
保護者様

平成 30 年 3 月 23 日
京都市立八瀬小学校
校 長 星 尾 尚 志

平成 2 9 年度後期

学校評価アンケートの結果より

今年度もいよいよ終わりにになりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「後期学校評価アンケート」の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。



【保護者重要度と実現度の分布結果について】

「重要度」については、毎回の調査ですべて中央より右側に集まり、保護者はどの項目も、「重要である」と考えています。それらがどれくらい実現されているかを示すのが「実現度」で、これは図の上側に行くほど実現できているという結果を示します。これら「重要度」と「実現度」とを関連付けて、それぞれの項目がどのような分布になったのかを示すのが上の図です。今回は、最も重要でしかも実現できている（右上）に8項目、やや重要で実現できている項目に3項目が入るという結果となりました。八瀬小学校の子どもたちが毎日、楽しく学校に通い、友だちと仲良く過ごせていると感じてもらえているということがわかります。

一方、重要であると思われるのに、あまり実現できていない項目が3項目ありました。それは、家庭学習に関わる「家で15分×学年の勉強をする」「家でも進んで読書をする」と、日常生活に関わる「家でお手伝いや仕事を進んでする」の3項目です。前期でもそうでしたが、家での様子に関わる項目が下位にきています。学校ではきまりを守って、意欲的に学習に取り組めているようですが、家では学習も読書も学校でのように、十分できていないようです。また、家のお手伝いや仕事もしていないことが感じられます。この3つの項目については、毎回問題になっているように思います。

【学校運営協議会の皆様からのご意見】

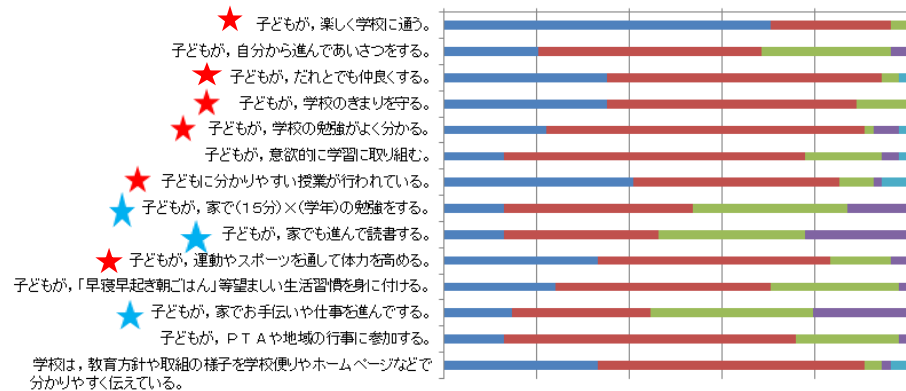
- ・読書については、物語だけでなく、その子の興味あるもの・その子に合ったものを探って与えていったらどうか。学校でも、色々な分野の本を増やしていつているので、自分に合った本を見つけていつてほしい。
- ・学校は教科学習を、地域・家庭は生活習慣など人づくりの学習を、それぞれが責任をもって果たしていく必要がある。

平成 2 9 年度前期学校評価（実現度）結果

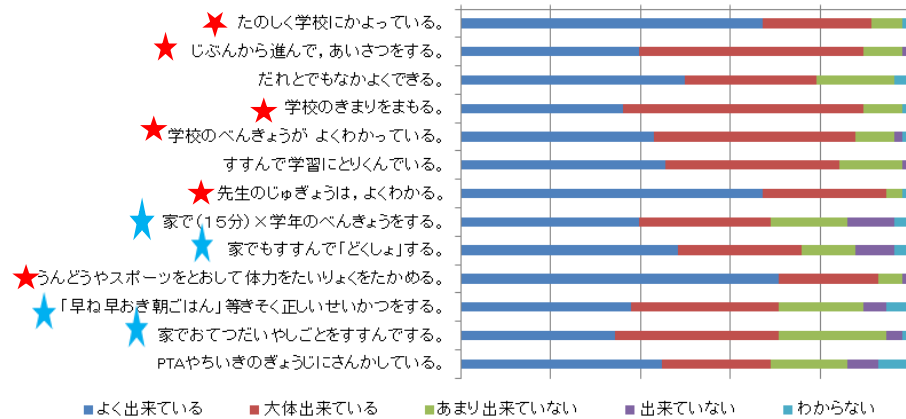
【項目ごとの実現度の結果について】

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない ■わからない

保護者評価結果

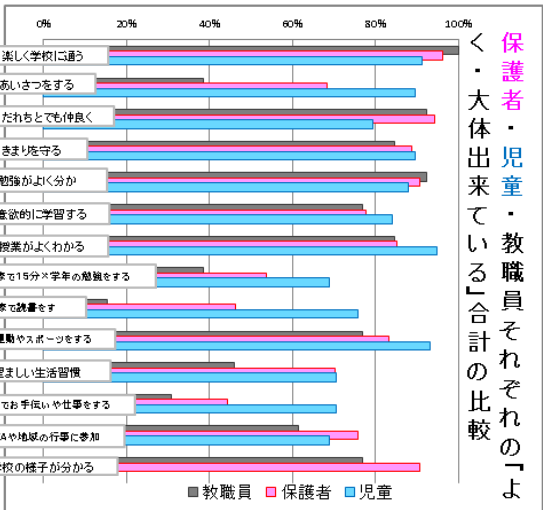
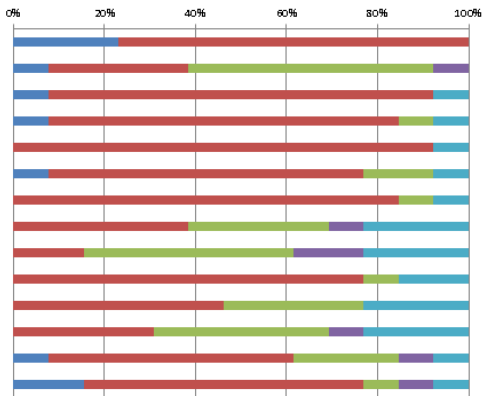


児童評価結果



■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない ■わからない

教職員評価結果



保護者・児童・教職員それぞれの「よく出来ている」割合の比較

今回のアンケート項目は14項目（児童は13項目）でした。保護者、教職員、児童それぞれの結果を上に示しました。また、それぞれの「よく出来ている」と「大体出来ている」という肯定的な回答を合わせたパーセントをそれぞれに色を変えて重ね、比較しました。よく出来ていること、逆にあまり出来ていないことの感じ方の度合いについては3者で多少違いますが、どれもよく似た傾向は出ています。

評価が低かったのは、「家で15分×学年の勉強をする」、「家でも進んで読書する」、「家でお手伝いや仕事を進んでする」の3項目でした。保護者や教職員の評価は、子どもたちよりもかなり厳しい結果になっています。「学校の勉強がよくわかっている」という項目が高い評価であることから、子どもたちは「分かっているから家で学習しなくてもよい」「宿題さえできたら学習終わり」と考えているのかもしれませんが。学校で学習したことをきちんと定着させ、より力を伸ばしていくために、家庭での自主的な学習の習慣はとても大切です。家庭学習の習慣を子どもたちに付けていくには、学校と家庭との協力がこれからますます必要であると考えます。

また、「自分から進んであいさつをする」の項目では、保護者評価が前回に比べて10%ぐらいアップしてきました。子どもたちが以前に比べてあいさつをするようになってきたことが分かります。登下校で地域の方に出会った時に、あいさつができていないという声を聞いていましたが、少しずつ改善されてきたようです。教職員からは、あいさつしているつもりでも、声が小さかったり、相手の顔や目を見て言えていなかったりして、伝わるあいさつができていないところを指摘しています。

「家でお手伝いや仕事を進んでする」という項目については、保護者は重要だと感じているので、子どもたちに必要な手伝いや仕事を与え、それを責任をもって毎日やりきらせる習慣をつけていくことが必要でしょう。

- ・地域での人のつながりをもっと大事にしていく。常に「～してもらっている」という考え方が大切である。
- ・これからますます家庭学習が大事になってくる。家庭学習を充実させていくためにどうしたらよいか。PTAが中心になって呼びかけて、学校の考えや取組を聞き、保護者が学ぶ場として、「学校長と話そう会」を計画してぜひ実施してもらいたい。学校の取組を聞いて、地域も家庭も協力していく必要がある。